

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 12 月 10 日作成)

小委員会名	電磁環境計測評価小委員会		主 査 名：三枝 健二 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (電磁環境運営委員会)		委員長名：田辺 新一 主 査 名：吉野 涼二
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>(設置目的) 建物の電磁環境に関する各種計測法及び評価法の確立と標準化 (活動計画) 2013 年度：「①建築物の現場における電磁シールド性能測定法の学会基準化」, 「②到来波を用いた電磁シールド性能測定方法の学会基準化の推進」, 「③電磁波ノイズ測定法の学会基準化の推進」, 「④電磁シールドルームの空間性能評価法の検討」の 4 つを主テーマに掲げ、それぞれ検討を行う。 2014 年度：4 つの主テーマについて継続して検討を行う。特に「①建築物の現場における電磁シールド性能測定法の学会基準化」について、企画刊行小委員会の立ち上げの準備を進める。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：三枝健二 (日本大学)，幹事：笠井泰彰 (大林組)，委員：宇治川 智 (鹿島建設)，松井俊蔵 (国土交通省)，木村健一 (フジタ)，國分 誠 (清水建設)，志田浩義 (トーキン EMC エンジニアリング)，鶴田壮広 (竹中工務店)，西村俊哉 (日本板硝子環境アメニティ)，橋本敏彦 (キーサイト・テクノロジー合同会社)，藤岡友美 (大成建設)，堀之内 淳 (リリカラ)，吉野涼二 (環境調査事務所) 計 13 名</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	無		
2014 年度予算	5,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	10 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	無
講習会	無
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	無
大会研究集会	無
対外的意見表明・パブリックコメント等	無

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建築物の現場における電磁シールド性能測定法の基準化の推進 基準値の測定環境について検討し、その結果を大会にて発表した。AIJESのWDを作成した。 2. 到来波を用いた電磁シールド性能測定方法の基準化の推進 東京スカイツリーからの送信波を用いた共同測定を実施し、本測定法の適用限界及び測定精度向上に関する知見を得た。その結果を大会にて発表した。 3. 電磁波ノイズ測定法の学会基準化の推進 WD作成を目指して、現状測定法の問題点を抽出した。 4. 電磁シールドルームの空間性能評価法の学会基準化の推進 評価法の分析のため、実験を行った。
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>無</p>
<p>運営委員会関連 刊行物・催し物</p>	<p><刊行物> なし <催し物> 建築電磁環境に関する研究発表会 2015 (2015.2.24 開催) (資料名) 建築電磁環境に関する研究発表会 2015 資料</p>

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2014年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p style="text-align: center;"> A B C D </p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>目的の①, ②に関して、本小委員会よりその成果を日本建築学会大会にて3件発表した。</p> <p>(1) 堀之内淳, 吉野涼二, 藤岡友美, 三枝健二, “到来電波を用いた電磁シールド性能測定方法の適用条件の検討—その2 東京スカイツリー放送波の使用の場合—”, 日本建築学会大会, No.40276, 2014.9</p> <p>(2) 吉野涼二, 笠井泰彰, 志田浩義, 三枝健二, 藤岡友美, “電磁シールド性能基準値測定方法に関する検討(その4 電磁シールド室付近の周辺環境による測定結果への影響度)”, 日本建築学会大会, No.40277, 2014.9</p> <p>(3) 志田浩義, 笠井泰彰, 三枝健二, 藤岡友美, 吉野涼二, “電磁シールド性能基準値測定方法に関する検討(その5 これまでの結果報告に対する意見や指摘とそれに関する考察)”, 日本建築学会大会, No.40278, 2014.9</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。